

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市原町児童館(のびすく宮城野)
2 指定管理者	特定非営利活動法人MIYAGI子どもネットワーク
3 指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和6年度 43,827人(前年度比 104.5%) うち のびすく宮城野利用者 20,890人(内訳 ひろば19,307人 一時預かり1,583人) 令和5年度 41,923人 うち のびすく宮城野利用者 20,024人(内訳 ひろば18,465人 一時預かり1,559人) 令和4年度 35,778人 うち のびすく宮城野利用者14,157人(内訳 ひろば12,507人 一時預かり1,650人) 《事業》 ・ 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的をした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 68,306千円 (67,020千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円) 《収入》 ・ 使用料収入 4,117千円 (3,796千円) ・ その他収入 14千円 (23千円)
6 利用者の声	《実施状況》 ・ 利用者アンケート、児童館運営懇談会、児童クラブ保護者会を実施。

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	31/31
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。また、乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、子育て支援クラブをはじめとする地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。	25/25

三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人MIYAGI子どもネットワーク）による自己評価》
のびすく併設の児童館として、「育つよろこび、育てる楽しさ、笑顔ひろがる児童館・のびすく」をテーマに、安心安全な居場所となることを大切に運営をした。こども会議を開き、「ボーリング大会」「宝探し」、図書購入等に関するアンケートを実施して、こどもたちの意見を運営に反映した。理由を問わない託児はニーズが高く(1583名)、利用者支援事業の相談(171件)の他に「カンガルーひろば(療育ひろば)」を通して児童発達支援センターの地域相談へ70件繋いだ。区内6か所の子育て支援センター共催で「わくわくひろば」、子育てサークルへの「出張のびすく」等、関係機関と子育て支援を行った。また、今年度は家庭健康課と「スペシャルパパタイム(父親支援者支援会)」「ネパール人親子支援」を開催。父親や外国籍の方への支援に力を入れ利用に繋がった。地域との交流を大切に、商店会の「七夕展示」や複合館の「花植え・水やり」「空間アトリエ事業」「祭りの発表」「イルミネーション点灯式ハンドベル演奏」等へ参加しこどもたちが認められる機会を作り自己肯定感を育てた。転入者向け「ウェルカムひろば」、支援者向け「宮城野区支援者交流会」、ママの為の「地域はっぴいプロジェクト」、「宮城野区民まつりでの親子ひろば(おむつ交換所、授乳室)」等、連携事業を実施した。児童クラブは年度途中より開始した入退館管理アプリやお弁当配送モデル事業、クロームブック使用等について丁寧に説明を行い、ご理解をいただいている。また、保護者会主催「おいでよ児童館」では保護者が企画したドッチボールや工作を通して交流、商店会を仮装して歩く「ハロウィンパレード」は地域と小学生を子育て中の親が直接顔を合わせ、親睦を深める良い機会となっており、参加商店が毎年増えている。児童館とのびすくの役割を担いながら、地域と共に産前から18歳未満まで切れ目のないこども・子育て支援を出来た。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
児童健全育成事業においては、中高生が毎日遊戯室を利用できる「ぶらラッコ」を設け、バスケットボールやバドミントンなどやりたい活動ができるように遊具や空間を整えたことで利用者数が増加した。日常的に小学生との交流も見られ、地域におけるこども達の仲間づくりや居場所づくりの場を提供している。また、小学生高学年を対象に定期的に「ぶらラッコ」を開催し、その中で「こども会議」を実施している。行事や遊び、館まつりの企画から運営まで携われるよう工夫し、社会性や自主性を育てている。 地域交流推進事業においては、地域の民生委員や地域の方と工作や運動遊び、将棋などを楽しむ「グランバとあそぼう」を定期的に行っている。また、商店街に七夕を展示したり、文化センターなどの複合施設の花壇に花を植えて水やりをするなど、地域と連携した協力体制のもと充実した事業を展開している。 放課後児童健全育成事業においては、安全面に配慮しながら、こどもが安心して過ごせる生活の場になるよう環境を整えている。また、こどもそれぞれの思いや意見を受け止めて遊びや生活の中で反映する機会を多く持ち、主体的に生活できるよう支援している。 のびすく宮城野では、ひろば事業における乳幼児の好奇心や発達段階に応じたプログラムの提供、理由を問わない一時預かり、地域の子育て関係機関や支援者と連携した相談事業や利用者支援事業の実施などを行い、子育て支援拠点としての役割を果たした。幅広いニーズに対応した様々なイベントも行っており、なかでも多胎児家庭向けの「ツインズサロン」、発達に不安をかかえる親子向けの「カンガルーひろば」は、子育て関係機関や民生委員児童委員などと連携することで地域の子育て支援体制の構築に貢献していることや、気軽に交流や相談ができる機会を提供しつつ必要に応じて専門機関へつなげていることが評価できる。	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課